生き物の宝庫、史跡・玉川上水を未来の子どもたちへ

東京都知事様

＜玉川上水の価値と道路計画＞

玉川上水は、江戸時代前期（1653 年）に江戸市中の飲料水不足を救うために造られました。多摩川（羽村市）から四谷大木戸（新宿区）まで 43km にわたり、歴史的価値が高いとされています。玉川上水は 1999 年に東京都により歴史環境保全地域に指定され、同年「玉川上水景観基本軸（以下「景観基本軸」）」として守られることになりました。2003 年には東京の発展を支えた歴史的価値を有する土木施設・遺構として、開渠部 30km が国の史跡に認定されました。玉川上水のなかでも、特に小平監視所から小川水衛所跡までの 5km は、法面（水路の両脇の土の面）がよく残っており、優れた景観となっています。まさにこの部分に「小平都市計画道路 3・2・8 号府中所沢線」（以下「小平 328 号線」）という幅 36m の大型道路が計画されています。

＜玉川上水の生物多様性の豊かさ＞

東京都は 2023 年に「東京都生物多様性地域戦略」を掲げ、推進しようとしています。長年にわたる市民団体の調査により、玉川上水の野草（種子植物）は 500 種以上が記録されており、武蔵野の野草も多く生育して、市街地としては非常に豊かです。また、この道路予定地の前後 1.2km だけで 84 種もの鳥類が確認されており、皇居（76 種）や明治神宮（94 種）に匹敵します。玉川上水は長いグリーンベルトであり、都心の生物多様性を支えています。玉川上水が生き物の宝庫である所以は、このグリーンベルトの連続性に他なりません。道路によって樹林が 36m幅で伐採されれば、この連続性が断たれることになります。東京都による「景観基本軸」では、玉川上水を特徴的な景観が連続していることが重要であるとし、その保全の必要性を強調しました。景観を形作る基礎になるのは生態系で、その保全なくして景観の保全はありません。旧来の調査では個々の希少種の保全を重視し、また伐採しても影響は小さいとされました（「環境影響評価書（1-283-1）」2011 年）。しかし生態系とそれを担う動植物をよい状態で残すには、保全生態学の考え方に立った「景観基本軸」と「東京都生物多様性地域戦略」に基づく調査が必要であり、私たちはそのような調査が実施されることを要望します。

＜市民にとっての価値＞

小平市にある玉川上水の緑道は、東西へ移動する生活の道として、また通勤通学路として、散策やジョギングの道として大勢の人が利用しています。また、近隣の幼稚園、小・中・高校、大学では活きた教材として自然観察や身近な歴史の勉強に役立てています。
玉川上水に隣接する雑木林（道路予定地）は、市民の散策や自然観察会はもちろん、シニアのゲートゴルフ、子どもの遊び場プレーパーク、幻燈会や映画上映会、彫刻展等の芸術活動と、広く利用されています。夏も涼しく、子どもが遊べる屋外の貴重な場所になっています。玉川上水と隣接の雑木林は、市民生活に密接した大切な自然です。

＜３つの価値と都知事へのお願い＞

道路予定地には、歴史的価値、生物多様性の価値、そして市民にとっての価値があります。失われた自然を元に戻すことはできません。私たちは未来を担う子どもたちに、玉川上水の水と緑を引き継いでいく責務があります。そのことを市民と東京都が協力して進めることを希望します。都知事におかれましては、ぜひこの場所を見ていただきたく思います。

都知事への要望

1. 「景観基本軸」と「東京都生物多様性地域戦略」にのっとった玉川上水の調査をしてください。
2. 「小平 328 号線」計画の現地を視察してください。
3. 「小平 328 号線」の建設を進める前に、上記1,2を実現してください。

お名前	ご住所

呼びかけ団体

玉川上水みどりといきもの会議 代表 高槻成紀
地球永住計画 代表 関野吉晴
ちむくい（ちいさな虫や草やいきものたちを支える会）代表 リー智子

署名送付先：187-0041　東京都小平市美園町 3-29-2　高槻成紀

第 1 次集約日　2024 年 6 月 30 日